

家庭と地域と連携した道徳教育 川上秀太選手講演会

1. 日 時 令和7年11月27日(木) 3. 4校時 10時25分～12時15分

2. 場所 3校時 朝日中学校体育館 4校時 各教室

3. 目 的 「令和7年度生活や学習、学級に関する調査」の結果、本校の生徒らは、自己肯定感が低い傾向があることが分かった。また、「周り助け合ったり、周りの人たちに感謝したりしているか」という質問に対しても、県平均と比較して低い数値であった。道徳教育を通して、生徒らの自己肯定感の向上を図り、周りの人たちと助け合い感謝しながら生きる生き方・考え方を育てたい。

3. 学習の流れ

(1) 当日まで

【学級での道徳授業】

内容項目「A 主として自分自身に関すること」または「B 主として人との関わりに関すること」の中から、目的に合った教材を選び、事前に各学級で授業をし、振り返りを行う。振り返りのワークシートは全学年共通のものを使う。

1年生	「25 私の話を聞いてね」
2年生	「22 夜のくだもの屋」
3年生	「30 失った笑顔を取り戻す」

(2) 当日

①3校時【川上秀太選手の講演】

講演のテーマ「自己肯定感を高め、周りの人たちとよりよく生きる」

②4校時【縦割りグループでのグループトーク】と【個人の振り返り】

講演後、1～3年生の縦割りグループに分かれ、講演から学んだことや感じたことについて、グループトークを行い、より自分の考えを深め、生徒の変容を促す時間をもつ。

※当日の①②共に、保護者も参加可。

4. 事前準備

担当	準備内容	締め切り
教頭 水戸	保護者への講演会のお知らせ (Home&School)	保護者会のお知らせをするときに
水戸	ワークシートの作成	作成済み
	グループメンバーの名簿入力用 Excel シート	10月21日(火)
	教室の割り振り(ひとつの教室に4~3グループ、10教室使用)	11月10日(月)
	川上秀太選手の掲示板作成	11月中旬
3年生担任	ファシリテーターを学年で39名決める(13・13・13)	10月28日(火)
3年生担任 ↓	各学年2~3名ずつを組み合わせた5~7人グループを、39グループ作る。 ①ファシリテーター1名を含む2~3人のグループを39グループ作る ②名簿に名前を入力し、2年生にまわす	10月28日(火)
2年生担任 ↓	①2~3人のグループを39グループ作る ②3年生から受けとった名簿に名前を入力し、1年生にまわす	11月4日(火)
1年生担任	①2~3人のグループを39グループ作る ②2年生から受けとった名簿に名前を入力する <u>※男女比や配慮が必要な生徒のバランスが良くなるように組み合わせる</u>	11月10日(月)
生徒会担当	生徒会長の挨拶指導	前日

5. 当日の準備

担当	内容	時間
環境委員 副担任	体育館に、保護者用の椅子を並べる	朝登校後
各学級	机を合わせて班を作る(4グループ分) 不要な机は後ろに下げる	2時間目終了後
環境委員	各グループに1つ、ホワイトボードとマジックを置いておく	

6. 11/27(木) 当日の流れ

時刻	内容	備考
10:20	整列完了（椅子をもって）	
10:25	川上秀太選手の紹介	保護者の参観可能
10:30	川上秀太選手講演会 「自己肯定感を高め、周りの人たちとよりよく生きる」	
11:10	生徒会長 御礼の言葉	マイクを渡しておく
11:15	休憩・移動	保護者も各教室へ行き参観
11:30	【グループトーク】 ① 講演から学んだことや感じたことについて、グループで共有する。	（ディスカッションのときに、保護者の方にも考えを聞くことができるとうい。）
11:45	② 各グループで話した内容を、周りのグループと共有する。（各グループのファシリテーターが報告する。）	
11:50	自分の教室へ戻る	
11:55	各自で振り返りを書く （振り返りシートは、事前に行った授業と同じものを使い、考えや意識の変容を感じられるようにする。）	

7. 事後について

担当	内容	締め切り
生徒会担当	前期・後期生徒会役員は、川上秀太選手に御礼の手紙を書く	公演後1週間以内
水戸	御礼の手紙を川上秀太選手に送付する	手紙完成後すぐ

選手プロフィール

氏名 川上 秀太（かわかみ しゅうた）
所属 株式会社アスピカ
生年月日 1998 年 11 月 22 日
競技 陸上短距離（100m、200m）視覚障がい（T13）
出身 福井県福井市
身長・体重 172.5cm / 63.5kg



川上選手は 1998 年に福井県福井市で生まれ、小学 3 年時に交通事故に巻き込まれて視神経を損傷しました。現在の視力は右目が 0.06、左目は 0.03 ほどで、右目の中心部と左目の内側半分は見えません。中学から陸上を始め、「みんなと同じ目標に向かって走りたい」と大学までは一般の大会に出場してきました。大学 3 年時に授業でパラスポーツに触れたことで、「僕が走ることで、障がいのある人たちの活力になれば」と、大学卒業後にパラ陸上にも出場するようになりました。今はアスリート雇用として会社に勤務しながら、大学時代の恩師に指導を仰ぎ、地元の競技場で汗を流しています。日本のパラ陸上選手で 100m を 10 秒台で走った選手はまだ数名しかいません。パラリンピックでの視覚障害選手のメダル獲得は、史上二人目、36 年ぶりとなっています。川上秀太選手の現在の自己ベストタイムは 10 秒 61 で、ノルウェーの選手がもつ世界記録 10 秒 37 に迫っています。

↓福井新聞オンラインニュースより↓

ゴール直後に雄たけび...世界パラ陸上、川上秀太が金メダル 男子 100 (視覚障害 T13)、初の世界一つかむ

パラ陸上の世界選手権第 4 日は 9 月 30 日、インド・ニューデリーで行われ、福井県勢の川上秀太（アスピカ）が男子 100 メートル（視覚障害 T13）決勝で 10 秒 91 をマークして金メダルを獲得した。昨年のパリ・パラリンピック銅メダリストで日本パラ短距離界のホープとして活躍する 26 歳が自身初の“世界一”の称号をつかんだ。

⇒パラリンピック「銅」川上秀太選手が母校の運動会に登場

川上は前日の予選を 11 秒 01 の 1 組 2 着で通過。8 人で競った決勝は、向かい風 1.3 メートルの中、好スタートで抜け出すと、得意の中盤以降も伸びて逃げ切った。2 着のオーストラリアの選手とは 0.05 秒差。ゴール直後に雄たけびを上げ、笑顔で日の丸を掲げた。